

教材名（活動名） 日本のお茶を飲もう	学 校 名	袋井市立袋井北小学校
	学年・人数	外国人（1・2・3・5・6年） ブラジル人5人、ペルー人1人、 フィリピン人1人、中国人1人 合計8人
	教 科 等	学級活動
実施時期 平成27年5月下旬	授 業 場 所	外国人児童生徒初期支援教室
	連 携 機 関	なし
ねらい ・お茶を飲むことを通して日本の文化にふれよう。		
学習（活動）内容 1 お茶の飲み方を知ろう。 ・「湯呑み」「急須」「茶托」「お茶っ葉」の名前を教えた。 ・湯呑みに湯を注いで湯呑みを温めた後、湯呑みに茶を注ぐと歓声があがった。 2 お茶を飲もう。 子どもたちが学校に持参する水筒の中身は水である。家庭では、ジュースや砂糖入りの紅茶を飲むことが多いようである。 お茶の香りが好きな子ども、嫌いな子どもがいた。全員が普段お茶を飲むことがないようで、恐る恐る飲み始めた。日本人にとっては慣れ親しんだお茶の香りに抵抗感があることは意外であった。半数の子どもは2杯目を飲んだが、全体的に飲み慣れていないという印象を受けた。5年生のブラジル人女子は、「飲めるけど、砂糖を入れたらおいしいのにな。」と言った。鼻をつまんで全く飲めない児童もいた。 3 お茶の栄養や効能を知ろう。 ・カテキンという成分があることを説明した。カテキンには体脂肪低下作用、抗菌作用があることを知り、高学年の子どもの心に残ったようだった。		
成果 ・日本の文化にふれ、これからの生活でお茶を飲むきっかけの一つになった。 ・お茶に栄養があることを知り、興味をもつ子どもがいた。 ・インフルエンザの予防のためにお茶でうがいをすることを理解し、生活に取り入れてみようという意識が芽生えた。		
留意点 ・文化や価値観の違いがあることを前提として、無理に経験させることのないよう配慮した。 ・今回の実践では該当しなかったが、イスラム教信者が含まれる場合等、食文化を扱う学習の際には特に配慮を要すると考えられる。		